

第20回 日本小児ストーマ・排泄管理研究会 プログラム・抄録集

会長：

山崎 雄一郎

神奈川県立こども医療センター泌尿器科



2006年

5月27日 土

神奈川県総合医療会館

横浜市中区富士見町3-1

ご 挨拶

神奈川県立こども医療センター 泌尿器科
山崎雄一郎

このたび第20回という節目の研究会を横浜の地で主催させて頂くことになり誠に光栄に思っております。小児のストーマ管理を主題として発展してきたこの会は20年の間に排泄・褥瘡・創傷・チューブ管理など幅広い分野を対象とするようになりました。今回の研究会ではこれらの分野に対して35題という多数の演題を頂きました。演題の内容は症例報告、治療方法のまとめ、専門外来確立への取り組みなど様々です。プログラム作成のために一つ一つの抄録に目を通してみますと、本当にいろいろな角度・視点でスタッフが考えている、全国のさまざまな現場でよりよい医療を子供と家族に提供しようと努力している、そういうひたむきさが伝わってきます。立派なテーマやスローガンはいらないのではないかと、患者さんと日夜接している医療スタッフが自由に意見を交換し、知識を吸収できる場としての研究会であり続けて欲しい、とわたしは感じています。今回の要望演題には小児泌尿器科医としてわたし自身が悩んでいる二分脊椎患者さんの排泄、とりわけ排便管理を取り上げさせて頂きました。二分脊椎に関しては専門の研究会もありますが、小児の排泄管理の現場では大きなウエイトを占める領域です。各施設の取り組み、工夫を共有できればきっと役に立つだろうと企画しました。

2年前に事務局より研究会開催のお話を頂いたときは、わたし自身が神奈川の小児病院に移動した直後であり、主催するなどおよびもつかないと思いました。しかし多くの人に支えられて準備をすすめることが出来ました。会員の皆さまにとって充実した会となるとともに、懇親会も含めて楽しい交流が広がることを願っています。

参加者へのお知らせ

研 究 会：5月27日(土) 8:55～16:10 神奈川県総合医療会館 7階講堂

受 付 時 間：会場は当日午前8:30に開場し、受付を開始いたします。

参 加 費：3,000円

年 会 費：3,000円

●幹 事 会：5月26日(金) 17:00～18:00 ポートヒル横浜 3階 ル・シェール

●世 話 人 会：5月26日(金) 18:00～19:00 ポートヒル横浜 3階 ル・シェール

●会 員 懇 親 会：5月26日(金) 19:00～21:00 ポートヒル横浜 4階 ラ・メール

会員懇親会は無料です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

発表形式についてのご案内

1) 発表形式：PCによる口演発表のみとします。

2) 口演時間：すべての演題の発表時間は5分です。

3) 討 論：一般演題は一演題ごとに4分の討論です。要望演題についてはセッション全員の発表後にまとめて質疑応答および討論を行います。一般演題・要望演題のセッション振り分けは事前に事務局より送付するプログラムを参照してください。

発表ファイルは当日発表2時間前までに以下の形式で受付に提出してください。

- 1) OSはWindowsのみを使用します。Macには対応致しません。
- 2) 当日はWindows XPを使用致します。発表ファイルがWindows XPパソコンで閲覧可能かどうか提出前に必ずご確認ください。
- 3) 使用ソフトウェアは、Microsoft社PowerPointのみです。対応可能バージョンはPowerPoint 2000及び2002です。
- 4) 持ち込み可能な記憶媒体はCD-R(必ずファイナライズされたもの)、USBフラッシュメモリー(パスワードロックをかけてないもの)の2種類のみです。
- 5) 特殊なフォントを使用されますと、画面に表示されなかったり文字位置がズレたりする可能性がありますので、使用するフォントはMicrosoft社の標準フォントのみとして下さい。

推奨：MS明朝、平成明朝、MSゴシック、平成ゴシック、OSAKA、Times New Roman、Times Symbol、Arial、Helvetica

- 6) 発表時間が限られているため動画の使用はご遠慮下さい。動画を希望される場合は事前に事務局に連絡して頂いた上、ご自身のWindows対応PCをご持参下さい。

最新のお知らせ内容については研究会ホームページをご参照ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo/hinyoukika/shounistoma.html>

事 務 局：〒232-8555 横浜市南区六ツ川2丁目139番地の4

神奈川県立こども医療センター泌尿器科

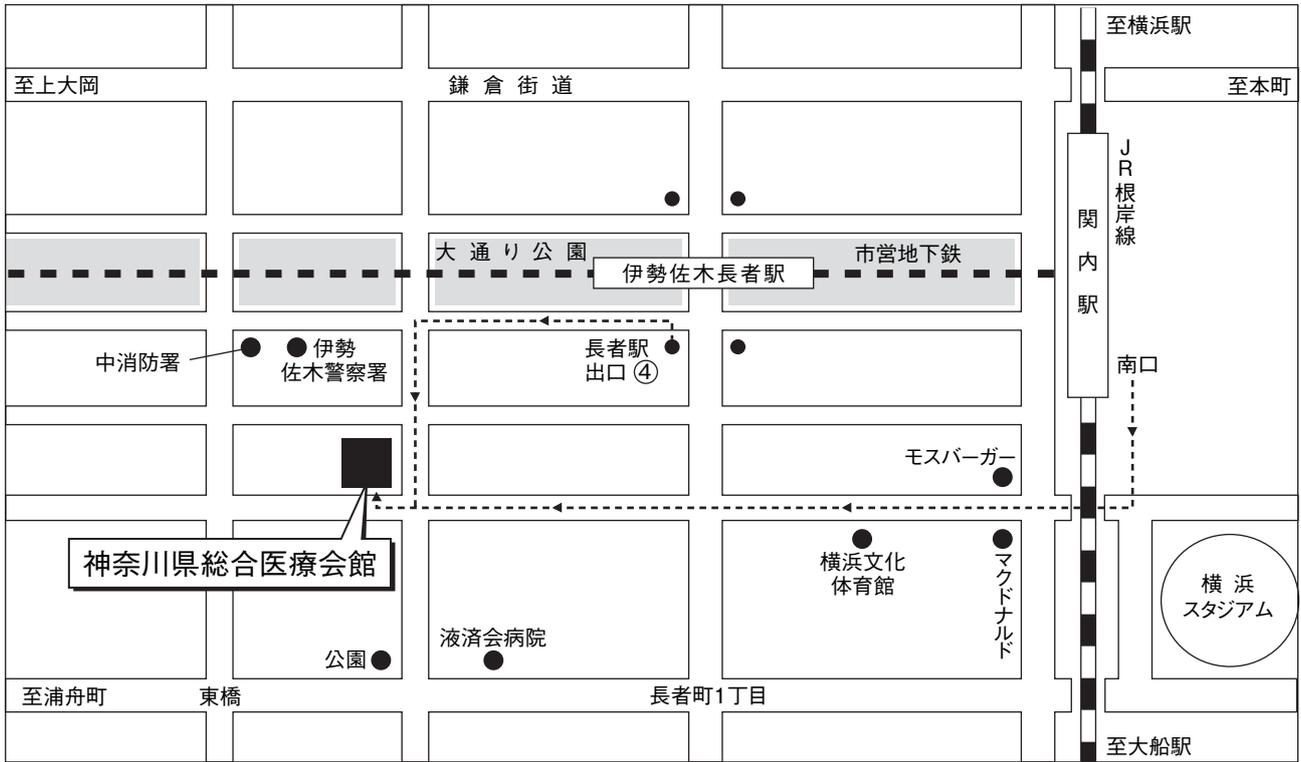
電話：045(711)2351(代表) FAX：045(721)3324

事務担当：鈴木万里(すずき まり)

研究会会場案内 神奈川県総合医療会館 7階講堂

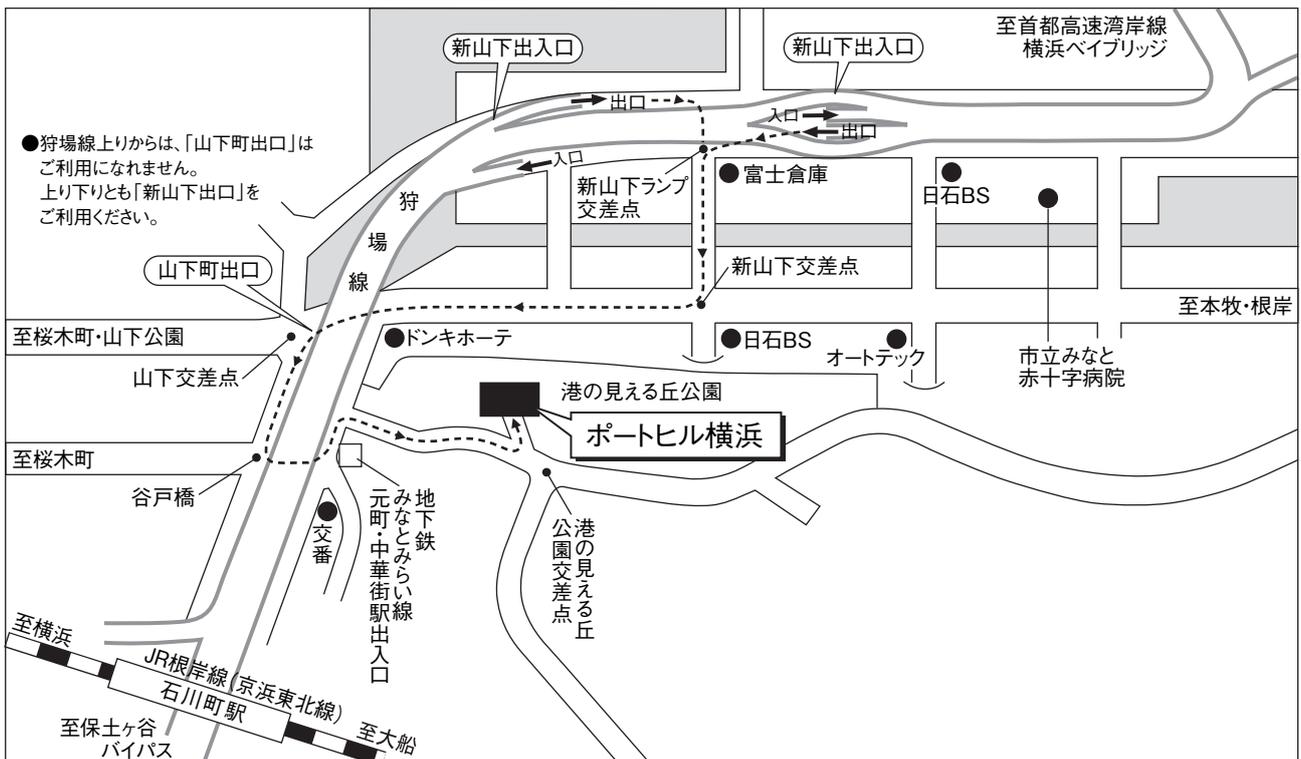
〒231-0037 中区富士見町3-1 TEL 045-252-1301

横浜市営地下鉄 伊勢佐木長者駅より徒歩3分 JR 関内駅より徒歩10分



懇親会会場案内 ポートヒル横浜

〒231-0862 横浜市中区山手町115番地 港の見える丘公園 TEL 045-621-9684



プログラム 受付開始 8:30～
開会の辞 8:55～9:00

午前の部：排泄管理

一般演題 I 9:00～9:45

尿路・導尿

座長：浅沼 宏 東京都立清瀬小児病院 泌尿器科
菅井亜由美 星が丘厚生年金病院 相談指導室

1. 養護学校における間歇的自己導尿（CIC）自立支援上の問題点を検討する

東京大学医学部附属病院 看護部 小柳 礼恵 他

2. 在宅自己導尿患者指導管理料と当科から支給した保険医療材料に関する報告

東京大学医学部附属病院 看護部 廣田真由美 他

3. 外来での導尿指導のシステムの確立に向けた取り組み

神奈川県立こども医療センター看護局 田中 貴子 他

4. 多くの先天異常を伴い尿路管理を工夫した症例

宮城県立こども病院 泌尿器科 坂井 清英 他

5. 禁制導尿路に問題を認めた症例の検討

兵庫県立こども病院 泌尿器科 相野谷慶子 他

一般演題 II 9:45～10:30

排便管理・洗腸

座長：窪田昭男 大阪府立母子保健総合医療センター 小児外科
市六輝美 神奈川県立こども医療センター 看護局

6. 直腸肛門奇形患児の排便管理 —乳児期の退院指導の見直し—

群馬県小児医療センター 富沢 三枝 他

7. 毛巣洞の手術を受けた二分脊椎症患児の創傷管理と排便管理の実際

福岡市立こども病院・感染症センター 和田 美香 他

8. 尿路変更及び順行性洗腸法を行った幼児への排泄の自立に対する援助 —地域との連携の効果—

神奈川県立こども医療センター 看護局 市六 輝美

9. 鎖肛患児に対する antegrade colonic enema の経験

東北大学小児外科 天江新太郎

10. 慢性便秘症に対する Monti 手術の経験

大阪府立母子保健総合医療センター小児外科 窪田 昭男 他

要望演題：二分脊椎患児の排泄管理 10:45～11:30

外来・チーム医療

座長：中井秀郎 独協医科大学越谷病院 泌尿器科
鎌田直子 兵庫県立こども病院 看護部

11. 当院 WOC 外来における活動状況と今後の課題

東京都立清瀬小児病院 WOC 外来 末吉 康子 他

12. 千葉県こども病院における二分脊椎外来の紹介

千葉県こども病院 看護局 安蔵 早苗 他

13. 千葉県こども病院の二分脊椎症外来の紹介 ―手術決定を支える看護師の役割―

千葉県こども病院二分脊椎外来 松岡 真里 他

14. 「はいせつ外来」における排泄障害をもつ子どもと家族への看護ケア
―二分脊椎症の子どもの排便管理に焦点をあてて―

神奈川県立こども医療センター 看護局 萩原 綾子

15. 二分脊椎患者の排泄障害に対するアプローチの検討

獨協医科大学越谷病院 小山田幸枝 他

排便管理の実態と治療 11:30～12:30

座長：上岡克彦 国立成育医療センター 泌尿器科
溝上祐子 日本看護協会看護研修学校

16. 二分脊椎症患児の排便管理

千葉県こども病院 外科 岩井 潤 他

17. 二分脊椎患児の排便管理の経験

東京都立清瀬小児病院 外科 広部 誠一 他

18. 神経因性直腸膀胱障害に対する外科治療

愛知県心身障害者コロニー中央病院 小児外科 田中 修一 他

19. 二分脊椎に対する MACE の有用性と課題

大阪府立母子保健総合医療センター 小児外来 松尾 規佐 他

20. 当院における二分脊椎患者の排便管理の現状

兵庫県立こども病院 看護部 鎌田 直子

21. 青年期以降の二分脊椎症患者の排便管理の実態と課題

星ヶ丘厚生年金病院 看護局 菅井亜由美 他

午後の部：ストーマおよび創傷・褥瘡管理

一般演題Ⅲ 13:40～14:45

ストーマ管理とQOL

座長：武 浩志 神奈川県立こども医療センター 外科
平林 紀江 長野県立こども病院 看護部

22. 超低出生体重児のストーマケア

九州厚生年金病院 NICU 坂井 視恵

23. 乳幼児期における高位空腸ストーマ管理の経験

近畿大学医学部附属病院57病棟 巽 有紀

24. 演題取り下げ

25. ストーマ管理を効果的にするアクセサリーの応用 —粉状皮膚保護剤と用手成形皮膚保護剤を使用して—

ブリストル・マイヤーズスクイブ コンバテック事業部 中川 礼子 他

26. 長期管理を要した小児消化管ストーマ症例の検討

神奈川県立こども医療センター 外科 武 浩志 他

27. 小児ストーマ管理の現状：近畿小児ストーマ研究会アンケート結果から

近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会当番世話人 八木 誠 他

28. 再発横紋筋肉腫に対し骨盤内臓全摘術を施行した1例

近畿大学医学部外科小児外科部門 野上 隆司 他

一般演題 IV 15:00～16:05

褥瘡・創傷・チューブ管理

座長：高野 邦夫 山梨大学医学部 第二外科
佐々木貴代 日本赤十字社医療センター 看護部

29. 腹腔内腫瘍摘出後の膀胱皮膚瘻管理経験

旭川医科大学病院看護部 日野岡蘭子 他

30. 総排泄腔外反症を有する乳児の皮膚粘膜管理について

埼玉県立小児医療センター 外科第一病棟 二渡 優子 他

31. 難治性唇状瘻胃瘻に対し保存的ケアを工夫した一例

北里大学附属病院小児病棟 甲斐 茜 他

32. 気管切開管理を行った超低出生体重児の1例

北里大学病院総合周産期センター NICU 病棟 岡 園代 他

33. 当院通院中のるい瘦著明な患児の褥瘡ケアを経験して

福岡市立こども病院・感染症センター 和田 美香 他

34. 後頭部開頭術における褥瘡発生と予防

兵庫県立こども病院 看護部 日切加奈子 他

35. 小児における褥瘡の現況と問題点、その対策

山梨大学医学部第二外科 小児外科部門 高野 邦夫 他

閉会の辞・次回会長挨拶 16:05～16:10

演題抄録

1

養護学校における間歇的自己導尿（CIC）自立支援上の問題点を検討する

東京大学医学部附属病院 看護部
小柳礼恵、廣田真由美、山口尚美、箕輪秀子、高橋雪子
同小児外科
仲西博子、杉山正彦、金森 豊、橋都浩平

当院小児外科外来では計17名のCIC継続看護を行なっている。導尿経路は尿道14名、ミイトロファン術後3名（内2名養護学校）である。養護学校の1名は介護の簡便性を考えた造設であり、後の1名はCIC自立目的の造設であった。後の児については、入院中に担任教員によるCIC手技の見学があった。学校に通学後、児の手技は声かけのみで自立しつつあるが、学校におけるCICは母の実施を原則としている。学校生活におけるCIC自立が停滞している原因として、児の自立支援を計画する際、学校、父兄、医療者間に認識の相違があったと考える。養護学校における医療的ケアについて、厚生労働省により指針が作成されている。しかし、各都道府県により作成された基準は異なり、内容については学校長の裁量にまかされているのが現状である。そこで、術前から退院後まで、患児の学校生活を考えたCIC自立支援をいかに行なうべきか検討したので報告する。

2

在宅自己導尿患者指導管理料と当科から支給した保険医療材料に関する報告

東京大学医学部附属病院 看護部
廣田真由美、小柳礼恵、山口尚美、高橋雪子、箕輪秀子
同小児外科
仲西博子、古村 眞、杉山正彦、金森 豊、橋都浩平

当院には、主に二分脊椎による神経因性膀胱のためにCICを行っている患者が多く通院している。在宅で自己導尿を行っている患者に対して在宅自己導尿患者指導管理料を算定した場合“必要十分な保険医療材料を渡さなければならない”ことになっており、当科でも児によって異なる導尿回数や使いやすさ、成長に伴うサイズアップなどに個別に対応しながら在宅物品を用意している。

今回、2003年4月から2006年3月までの3年間に当科外来に通院した在宅自己導尿患者指導管理料算定患者と当科から支給した保険医療材料についてまとめたので報告する。

3

外来での導尿指導のシステムの確立に向けた取り組み

神奈川県立こども医療センター 看護局
田中貴子、石原加代、御厨嘉奈美、市六輝美

当センターは泌尿器科・脳外科・整形外科・新生児科など二分脊椎症の患者が治療を受けるうえで必要な診療科が揃い、肢体不自由児施設・養護学校を併設している小児の専門病院である。泌尿器科外来に通院する二分脊椎症の患者の多くは神経因性膀胱を合併しており、その治療の一つとしての清潔間歇導尿(clean intermittent catheterization 以下 CIC と略す)は確実に継続して行う事が重要といわれている。在院日数が短縮される昨今外来での指導の重要性は高まってきており、当センターでも外来の看護師が指導を行い始めて1年以上が経過した。外来の特性として診療介助・通常業務があり、指導時間の確保が困難な状況の中で、泌尿器科外来では様々な取り組みの結果、導尿指導のシステムを整備する事が出来たので、ここに報告する。

4

多くの先天異常を伴い尿路管理を工夫した症例

宮城県立こども病院 泌尿器科
坂井清英、梶井成彦、山室 拓
同外来看護部門
櫛田正江、野中久美子、加藤美由紀、佐藤知子、小畑正子
同成育部門
相墨生恵
Child life specialist (CLS)
藤井あけみ
東北大学泌尿器科
荒井陽一

患者は現在6歳の男児。1999年6月11日出生後に鎖肛を指摘され人工肛門を造設された。7ヶ月時の肛門造設術施行の際に、尿道留置カテーテルが入らず膀胱瘻を造設された。多発する尿路異常(両側停留精巣、尿道下裂、尿道低形成、両側逆流性巨大尿管症)を認めた。尿路管理法として4歳時に両側尿管膀胱新吻合術および腹壁導尿路(尿管を利用したミトロファノフ法)を作成したが、カテーテル操作に対する恐怖心から、即座に間欠導尿は施行し得ず、外来にて導尿用のぬいぐるみやビデオを用いて教育を行ったところ、小学校入学前の2005年12月から間欠導尿へ移行できた。現在は母親が施行しているが、患者本人も施行できるよう訓練を行う予定である。

日本小児ストーマ・排泄管理研究会会則

(平成14年2月1日改正)

第 1 条 (名称)

本会は、日本小児ストーマ・排泄管理研究会 (Japanese Society of Pediatric Ostomy and Continence Care) と称する。

第 2 条 (目的)

小児ストーマケア、排泄管理および創傷管理の向上と普及、これらの管理や治療に用いる用品の開発と普及、ならびにこれらの病態に関する研究を目的とする。

第 3 条 (事業)

本会は、下記のことを行うものとする。

1. 年1回の学術研究会を開催する。開催地、日時は日本ストーマリハビリテーション学会と関連をもつことを原則とする。但し、会長が本会の目的にかなうと判断した場合には、日本ストーマリハビリテーション学会と別の場所、期日に学術研究会を開催できる。
2. 学術研究会の記録を日本ストーマリハビリテーション学会誌に掲載する。
3. その他、第2条の目的を達成するための事業を行う。

第 4 条 (会員)

1. 本会の会員は、医師、看護師、その他の医療従事者を正会員とする。ストーマ用品メーカーに属する上記以外の職種のもは準会員とする。
2. 本会正会員のうち、本会の発展に多大の貢献をなしたものから、代表世話人が幹事会および世話人会の議を経て推薦するものを、特別会員とすることができる。特別会員は会費の納入を要しない。
3. 特別会員は世話人会に出席することが出来、意見を具申することが出来るが、世話人会における議決権を有しない。

第 5 条 (役員)

1. 本会に下記の役員をおく。

代表世話人	1名
会 長	1名
副 会 長	1名
幹 事	8名(医師4名、看護師4名)
監 事	2名
世 話 人	若干名

2. 代表世話人は、世話人会の互選によって世話人会で定められ、会務を統轄、執行する。幹事会・世話人会を主催し、幹事会の議長を務める。任期は4年とする。ただし、連続3期の再任は出来ない。
3. 会長は世話人の承認を経て副会長が昇任し、学術研究会を主催する。会長はその任期中は幹事とし世話人会の議長を務める。
4. 副会長は、世話人の互選により世話人会で選出され、会長を補佐する。副会長はその任期中は幹事とする。
5. 幹事は、世話人会に出席している世話人による選挙で会員中の候補者から選ばれる。幹事になろうとするものは、代表世話人にその意志を届け出るものとする。幹事は幹事会を組織し、世話人会の権限に属する以外の事項について審議し、代表世話人を補佐する。幹事会は必要ときには委員会を設置して幹事会を補佐させることが出来る。幹事選挙は、医師候補者の中から2名連記、看護師候補者の中から2名連記する無記名投票で2年ごとに行う。幹事の任期は4年とし、2年ごとにそれぞれの半数を改選する。連続3期上の再任は出来ない。
6. 監事は、世話人会に出席している世話人による選挙で会員中の候補者から選ばれ、財産の管理、代表世話人と幹事の会務執行を監査し、幹事会に出席する。監事になろうとするものは、代表世話人にその意志を届け出るものとする。監事選挙は候補者の中から単記無記名投票で行う。監事の任期は4年とし、2年ごとに1名を改選する。再任は出来ない。
7. 世話人には、その意志を代表世話人に書面で届け出、世話人会で承認された会員がなることが出来る。世話人は世話人会に出席し、代表世話人、幹事、監事と副会長の選出、その他代表世話人から諮問された事項について審議・決定を行う。連続して3回世話人会を欠席した場合、あるいは連続して3年以上世話人会費を納入しなかった場合には原則としてその資格を失う。

第 6 条（委員会）

幹事会は必要に応じて委員会を設置し、会員の中から委員長、委員を任命することが出来る。委員会は諮問された事項について年一回以上幹事会に報告しなければならない。

第 7 条（会費）

会員は、年会費を納めるものとする。年会費の額は、世話人会で決定する。世話人は、その他に世話人費を分担する。その額は、世話人会において決定し、付則に記載する。

第 8 条（入会および退会）

1. 入会を希望するものは、その旨を事務局に書面で届け、会費を納入する。
2. 退会を希望するものは、その旨を事務局に届け出なければならない。
3. 3年間会費を納入しないものは原則として退会とみなす。

第 9 条（議決）

幹事会の成立には構成員の2/3以上の、世話人会の成立には構成員の半数以上（委嘱状を含む）の出席を要する。

幹事会、世話人会の議決は、それぞれ出席者の過半数で決定し、同数の場合は議長が決する。

第 10 条（事務局）

本会の事務局を下記におく。

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部小児外科内

第 11 条（会則変更）

本会則の変更は、全世話人の3分の2以上（委嘱状を含む）が出席する世話人会において、世話人会出席者の過半数の同意を必要とする。

付則

1. 会費は 3,000円とする。
2. 世話人は、上記の他、世話人費2,000円／年を分担する。
3. 会計年度は1月1日から12月31日までとする。
4. 本会則は、昭和62年2月8日より実施する。
5. 本会則は、平成10年5月8日に改正する。
6. 本会則は、平成14年2月1日をもって上記のごとく改正し発効する。

連絡

会費・世話人費の納入方法

郵便局に日本小児ストーマ・排泄管理研究会の口座を開設してあります。

郵便振替口座番号 C0130・8・39137

名称 日本小児ストーマ・排泄管理研究会

領収証は郵便局の受領印で代えさせていただきます。

日本小児ストーマ・排泄管理研究会事務局

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学医学部小児外科内

代表世話人 橋都 浩平

事務局長 金森 豊

電話 03-5800-8671

日本小児ストーマ・排泄管理研究会 世話人名簿

2006年4月6日現在 ○は幹事は幹事、◎は監事、*は未承認

外科

施設名	医師側	看護職側
北海道		
旭川医科大学第一外科	宮本 和俊	日野岡蘭子
北海道大学 小児外科	佐々木文章	
東北		
弘前大学小児外科	須貝 道博	久保田昭子
秋田大学小児外科	加藤 哲夫	
東北大学小児外科	林 富	熊田真紀子
山形大学第二外科	山際 岩雄	
岩手医科大学小児外科	* 水野 大	* 千葉 励子
関東甲信越		
新潟大学小児外科	窪田 正幸	
群馬県立小児医療センター	鈴木 則夫	中村 孝子
公立藤岡総合病院	長嶋起久雄	
千葉大学小児外科	大沼 直躬	
千葉県立こども病院	岩井 潤	上加世田豊美
埼玉県立小児医療センター	岩中 督	大里 則子
獨協医科大学越谷病院小児外科	池田 均	小山田幸枝
埼玉医科大学第二外科	里見 昭	上村 直子
さいたま市民病院	○ 中野美和子	
埼玉医科大学小児外科	* 大野 康治	
帝京大学第二外科	小川 富雄	
日本大学小児外科	* 草深 竹志	
東京都立清瀬小児病院外科	広部 誠一	* 末吉 康子
東京女子医科大学看護短期大学		◎ 石川眞里子
東京大学小児外科	○ 未 定	未 定
慶応義塾大学外科	森川 康英	佐内結美子
東京慈恵会医科大学外科第一	未 定	
東邦大学第一外科	中村 博志	保刈 伸代
国立成育医療センター外科	* 森川 信行	
杏林大学	伊藤 泰雄	宇土多美子
日赤医療センター小児外科	石田 和夫	佐々木貴代
聖マリアンナ医科大学小児外科	中田幸之介	久永加代子
神奈川県立こども医療センター外科	武 浩志	市六 輝美
北里大学外科	田中 潔	
北里大学東病院外科		松原 康美
町田市民病院外科	○ 水野 良児	
東海大学第二外科	上野 滋	
山梨医科大学第二外科	高野 邦夫	
山梨県立中央病院小児外科	久保 雅子	
長野県立こども病院	百瀬 芳隆	○ 平林 紀江

施設名	医師側	看護職側
東海		
静岡県立こども病院外科	長谷川史郎	木村 真子
名古屋大学小児外科	安藤 久實	山下 一味
名古屋市立大学第一外科	* 鈴木 達也	
藤田保健衛生大学小児外科	橋本 俊	
国立療養所長良病院	鴻村 寿	栗本 淳子
愛知県コロニー 外科	* 加藤 純彌	
北陸		
富山医科薬科大学第二外科	塚田 一博	
金沢医科大学小児外科	伊川 廣道	
近畿		
大阪大学小児外科	未 定	
近畿大学第二外科	八木 誠	堂本 勝子
大阪府立母子保健総合医療センター外科	窪田 昭男	田中はるみ
大阪市立総合医療センター小児外科	中村 哲郎	未 定
兵庫県立こども病院外科	○ 西島 栄治	鎌田 直子
兵庫医科大学第一外科	未定	
中国		
鳥取大学救急部	清水 法男	
広島大学総合診療部	檜山 英三	未 定
国立療養所柳井病院	田村 泰三	
四国		
香川大学小児外科	渡辺 泰宏	
愛媛大学第二外科	宮内 勝敏	
九州		
九州大学小児外科	* 田口 智章	
福岡市立こども病院外科		和田 美香
久留米大学小児外科	* 八木 実	
長崎大学第一外科	大畠 雅之	
長崎大学医療技術短期大学		宮下 弘子
熊本赤十字病院	寺倉 宏嗣	
武雄市立武雄市民病院		○ 江口 忍
プリストマイヤー コンパティック スクイブ(株)		○ 中川 礼子
沖縄		
沖縄県立那覇病院小児外科	仲間 司	* 砂川 悦子

泌尿器科

施設名	医師側	看護職側
北海道		
北海道大学泌尿器科		林 みゆき
東北		
宮城県立こども病院	坂井 清英	
関東甲信越		
新潟大学泌尿器科	未 定	
千葉県こども病院泌尿器科	長 雄一	安蔵 早苗
東京都立清瀬小児病院泌尿器科	浅沼 宏	
獨協医大越谷病院泌尿器科	○ 中井 秀郎	
東京女子医科大学腎臓総合医療センター	未 定	
国立成育医療センター泌尿器科	上岡 克彦	
東京慈恵会医科大学泌尿器科	未 定	
日本看護協会 看護研修学校		○ 溝上 祐子
神奈川県立こども医療センター泌尿器科	山崎雄一郎	
北里大学泌尿器科	宋 成浩	
信州大学泌尿器科	井川 靖彦	
近畿		
兵庫県立こども病院泌尿器科	杉多 良文	
大阪府立母子保健医療センター泌尿器科	島田 憲次	大野真理子
星ヶ丘厚生年金病院泌尿器科	百瀬 均	菅井亜由美
九州		
福岡大学泌尿器科		梶西ミチコ・山下 富子
福岡市立こども病院泌尿器科	未 定	